

平成27年度第3回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成27年11月16日(月)15時30分から17時00分

場 所： 墨田区役所12階 123会議室

議事内容： 1 開 会

2 福祉保健部長あいさつ

3 議事

(1) 第三次墨田区地域福祉計画後期中間のまとめ(案)について

(2) その他

4 閉 会

【配布資料】

第三次墨田区地域福祉計画後期中間のまとめ(案)

第三次墨田区地域福祉計画後期中間のまとめ(案)概要

墨田区地域福祉計画推進協議会委員名簿(平成27年10月1日現在)

墨田区地域福祉計画改定 日程

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏 名	所 属	出欠席
山 口 稔	関東学院大学教授	出席
市 川 菊 乃	墨田区医師会会長	欠席
湯 澤 伸 好	東京都本所歯科医師会会長	欠席
濱 野 明 子	墨田区薬剤師会会長	出席
吉 田 政 美	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘 司 康 男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野 原 健 治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼 田 典 之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
小 林 実	はなみずき高齢者在宅サービスセンター長	欠席
横 山 信 雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗 田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
椎 名 美恵子	墨田区男女共同参画推進委員会	出席
石 鍋 光 子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊 藤 林	個人ボランティア	出席
本 宮 秀 明	全国福祉情報研究会3 SUNネット墨田支部	出席
井 上 久 子	録音グループかりん会長	出席
齊 藤 宮 子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外 川 浩 子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	欠席
青 木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
石 井 秀 和	墨田区子ども・子育て支援担当部長	出席
北 村 淳 子	墨田区保健衛生担当部長	欠席
小久保 明	墨田区区民活動推進部長	出席

事務局

厚生課長 池田 善久
 障害者福祉課長 小板橋 一之
 高齢者福祉課長 福田 純子
 区民活動推進課長 中山 賢治
 厚生課 東條、柴田、山崎

その他

傍聴者1名

議事録

【 1 】 福祉保健部長あいさつ

本日の会議は、地域福祉計画（後期計画）の改定案の中間まとめについてが主な議題となる。忌憚のないご意見をお願いしたい。

【 2 】 議事：第三次墨田区地域福祉計画後期中間のまとめ（案）について

（ 1 ）事務局（厚生課）より資料の説明

- ・第三次計画は平成23年度から平成32年度までで、5年目である平成27年度に見直し、改定となる。後期計画は平成28年度から平成32年度までとなる。
- ・改定にあたって、第三次計画の基本的な方向性は引き継ぎ、区民やその他に主体について分かりやすく、実際の行動につながるよう、活動者の意見や取組事例を積極的に記載する。
- ・プラットフォームによる地域福祉を基本的視点に定め、協治（ガバナンス）を進める手法として、プラットフォームの考え方を改めて定義付けをしている。
- ・現計画の成果と課題を把握するため、区民や各主体にヒアリングやアンケートによる質的な調査を行ったほか、すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムを行った。意見等を計画内容に反映させるため、分かりやすい記載に努めている。
- ・新たな事業に加え、既存事業の整理統合を行っている。地域福祉の推進に関わりの深い28事業を主な事業とし、その他の事業を関連事業としている。現計画からの継続事業が19、統合した事業が2、新規事業が7となっている。

（ 2 ）委員からの質問・ご意見

プラットフォームを作るのが先決である。「地域の問題点を探り、解決策を見出す場」がプラットフォームだと考える。コミュニティ・ソーシャル・ワーカーといった専門スタッフや社会福祉協議会、民生委員が核となり、その地域で起こっている問題について話し合っていく場を作るのが最初ではないか。プラットフォームについて、大まかでもいいので、どういうものが記載しておくのがいい。

地域福祉・ボランティアフォーラムでは、時間が足りずに解決策まで話しきれなかった。実施したことが成果ではなく、話し合った中身が出せるように回数を重ねたり、時間をかけた方がいい。

プラットフォームの主体には、当事者も入れていかなければいけない。最近では、高齢者と障害者が同一の人で重なるケースもある。地域においても、取り組みやイベント等の対象者はほとんどが健常者で、障害者は除かれるため、当事者を入れないと話がまとまっていけない。

ヒアリング先やアンケート先に偏りがあるのではないか。もう少し幅広く実施すべきではな

かっただろうか。

高齢化の現代において、増加する高齢者が集まる集会場などが廃止されると、高齢者の行き場がなくなるが、そうした集まる場に出向いて意見を聞くこともできたのではないか。地域福祉計画推進協議会の委員の方々が属している団体やNPO、ボランティア団体等へ、アンケート調査やヒアリング調査を実施したが、たくさんの方までにはなかなか手が伸びなかった面もある。そういったところをカバーするために、すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムでディスカッションの場を設け、区民の方などに広く意見を伺った。(厚生課長) アンケートでは量的な把握はできるが、質的な把握はヒアリングとなり、実施が難しい上に時間がかかる。子ども・子育て会議でもヒアリングの手法を取り入れようとしており、そういう意味ではいち早く取り組んだものである。(野原会長)

現在、サポート薬局として、医療と介護を融合した機能を薬局が持つようにと国の計画にあり、ケアカフェという形で始めている薬局もある。地域の中でそのような場が増えていくと良いし、その方向性を探ってPRしていきたい。

障害者を含めた地域福祉計画だと思っているが、実際には健常者が中心の内容となっている。障害者団体連合会の各部会の悩みや問題点は行政に伝えており、それを施策に反映するようお願いしている。ヒアリングは過去2回行ったことがあり、回答は行政に伝えている。障害者団体連合会とは日頃からやり取りしており、連携は取れている。連合会は当事者としての団体と、福祉向上のための団体の2つの側面を持っているため、例えば、プラットフォームに参加して当事者として問題点を提示する、中継ぎの役目もある重要な組織と認識している。(障害者福祉課長)

墨田区で色々なイベント等に参加している人たちは、良いイベントでまた参加したいと言ってくれるが、周知されていない点が課題である。各課で連携しながら、区民によく知ってもらえる方法を取れないかと感じている。

老人クラブに対して、今回行われたヒアリングやアンケートは実施されていない。会員数も1万3千人を超えており、意見を聞いてくれるとありがたかった。また、地域福祉計画において、平成23年から予算は増えているのかどうか。

地域福祉計画の中で取り組む課題については、厚生課や社会福祉協議会で実施している事業がある。また、障害者、高齢者、子育てなどの分野で行っている事業も、地域福祉計画の中に取り組みされている。それぞれの部署で計画に基づいて予算を組んで実行していることから、金額的なことは把握できないが、推進していることは事実である。(厚生課長)

近年、まちかどカフェとして地域の方々と地域をまわり、集まる場を作り、プラットフォームの実践に取り組んでいる。

社会経済状況が変わっていく中で、今までのように福祉行政だけではなかなか回らず、住民の皆さんが主体となっていくと感じている。また、制度の狭間で、制度で対応が出来ないと

ころは住民の皆さんに協力いただくことが重要な取り組みかと考えている。ただ、全部についてプラットフォームに答えを見出すという流れは懸念している。プラットフォームは場作りであり、その場にどういったことを入れ込んでいくのか、どういうメンバーで構成していくのかという部分が重要だと考える。委員の意見を伺っていても、プラットフォームに関する認識がまだ合致していない部分があって気になっているため、その辺の議論を今後進めていきたい。

専門職を5年間は動かさないのが重要だろう。職員が異動する中でボランティアが継続していると、ボランティアの方が職員より詳しくなり、プラットフォーム自体が危うくなってしまふ気がする。専門職としてきちっと押さえていただきたい。また、すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムでも、解決策まで話せるようにしてもらいたい。

子ども・子育ての場づくりでは、児童館を子育て支援拠点に位置付けようとしている。地域福祉の場づくりの点からいえば、子育て支援拠点のことを取り上げる必要がある。

障害者を理解してくれる地域がほとんどない。行政とは連絡して連携できており、障害者のことを把握してくれているので安心できている。行政が民間を後押ししてくれるとありがたい。

この意見は重く受け止めたい。(野原会長)

高齢者の見守り体制を強化するため、高齢者みまもり相談室に職員の配置を増やしてきている。見守り体制は相談室だけではなく、民生委員を核として地域の協力によって行えており、みまもり協力員の育成にも力を入れている。計画に基づいて、見守り体制を充実させていきたい。(高齢者福祉課長)

歴史的に障害者理解が進まなかったこともある。地域で共生していくためには、障害者が外に出ていく機会が必要であり、地域が障害者を理解する必要がある。そのために、啓発のイベントやプラットフォームによる理解促進を図り、共生社会を築いていきたい。(障害者福祉課長)

町会自治会の加入数は増えていても加入率は下がっており、マンションが増えたことが原因のため、対策はしていきたい。ボランティアの登録数も減っているが、原因の把握と講じる対策をどうするのか気になる。また、福祉に関連するNPOも増えていることから、ボランティア登録の担い手がNPOに移行しているのではないかと考えられる。実態を調べた上で対策していく必要がある。ボランティアセンターのあり方も考える必要があるのではないか。

地域のつながりが求められていると感じられるが、広がりが足りない。参加意欲のある人をつないでいく仕組みが必要だろう。町会自治会への支援を行っていることから、小地域福祉活動の面で、社会福祉協議会との連携も必要と感じている。(区民活動推進課長)

精神障害者への就労支援として浴場組合と取り組んでいるが、単にボランティアの募集などの配布や活動の周知だけではなく、ポイントを絞った広報が必要ではないか。

町会会館を週1回開けて、住民の声を聞いたり、高齢者や障害者の相談を受けたり、高齢者が集まりやすい場を作るなどしてはどうか。そして、この推進協議会をコアとして、そのための方策を協議して実施の計画を立ててはどうか。

(3) 山口副会長からのコメント

- ・ヒアリング調査は質的調査ということで、ある程度、対象を限定して深く話を聞くことを重視したが、されに多くの人から話を聞いた上での計画内容への反映が反省点として示された。
- ・地域福祉計画は墨田区全体を見渡し、どのように推進していくかという視点で作られるが、一方で、どう具体的に進めていくのか見えないという部分もあるだろう。地域包括ケアの視点で整理し直すと、地域や個別の問題の解決が見えてくるのではないか。小地域から出発するとなると、区域の設定が必要となるが、おおむね小・中学校の学区が通例である。
- ・住民が議論して問題解決を図るとしても、議論の進め方や整理の仕方が分からず、適切なアドバイスが必要だが、専門家の配置ができていない。大都市圏ではそのような取り組みが進められており、墨田区でもどう進めていくか課題になるだろう。
- ・計画を進める場合、どこに重点的に予算を付けるかが大事であり、それにより計画が見えて実効性が持てる。コミュニティ・ソーシャル・ワーカーや地域のリーダーの育成を重点とする必要があるだろう。
- ・サービスを提供する側が問題を作り出している側面もあり、解決には地域包括ケアが大事になる。ニーズのある人には多様なニーズがあり、一人の人間のニーズを総合的に把握する総合性と包括的なサービスが必要である。また、専門職が異動しても、環境が変わっても、サービスが継続される継続性が求められる。地域をベースとした支援も大事である。
- ・プラットフォームについて、その定義において分かりやすい解説を加えるとともに、「これからの取り組み」の部分に、何らかの形で具体的なプラットフォームについて述べてはどうか。
- ・プラットフォームは必ずしも地縁的な組織ではないため、課題別のプラットフォームのような柔軟性のあるプラットフォームが良いのではないか。
- ・日常的に計画が進んでいるかどうか管理するのは難しいため、小地域単位で管理し、小地域での解決が難しい時にもう少し広い範囲で対応してはどうか。これが実質的なプラットフォームになるだろう。
- ・個別問題からの出発、小地域からの出発という視点から計画全体を見直していくことが必要だろう。ただし、今回は中間の見直しのため大枠は変えないが、本体とは別に地域包括ケアとして新たな考え方を示す必要がある。それを冒頭のあいさつ部分や、巻末での会長や委員会からの提言として提示し、その内容を5年後に確認してはどうか。また、今後の時間や回数関係から、会長より具体的な提案を行い、最終的なまとめとしてはどうか。

会長としても多くの人から意見を伺いたい。また、これまでの意見を取りまとめて、協議会で承認を得られれば、提言として計画に盛り込みたい。(野原会長)

【3】 その他

(1) 厚生課長より、今後の流れを説明

- ・ 12月の区議会で中間のまとめを報告し、パブリック・コメントを実施する。その後、2月中旬に推進協議会の開催を予定している。

(2) 野原会長より、活動事例紹介のお願い

- ・ 事務局で計画に具体的な活動事例紹介を行いたいとの考えがあるため、紹介したい事例があったら会長や事務局に伝えてほしい。検討させていただきたい。